

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390200067		
法人名	株式会社 フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム とくがわの憩 3F		
所在地	愛知県名古屋市中区大松町4番6号		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分が認知症になってから暮らしたい家」の理念の下、生活している方の尊厳を大切にしている。一方的な介護ではなく、その人らしさを常に考え、時にはピクニックへ行ったり、外食で焼き肉を食べに行ったりなど今までの生活の延長を重視し入居者の「声」を尊重している。また、季節に合った行事を毎月開催しており入居者様が喜んで頂けるレクリエーションを話し合いのもと実施している。介護予防の観点からは、一人ひとりが残っている能力に応じて役割を持ち自分の居場所を提供できる環境をスタッフの話し合いで検討している。医師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士との連携にも努め、現在の状態を少しでも長く維持して安心して生活できるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとくがわの憩は名古屋の中心部にある東区に平成27年3月に開設したばかりの施設である。法人全体で人材育成や資格取得に力を入れており、ホームで月1回行うスタッフ会議後に感染対策・事故対策・身体拘束・看取り・法令遵守等各委員会中心とし勉強会を開催し出勤日以外の職員も積極的に参加し自己のスキルアップの為に取り組んでいる。また、入居者一人ひとりの意向や生きがいを大切に、個々の食事ペースに合わせた配膳や食事場所にも配慮を行っている他、入居者の得意な事、好きな事を把握し、裁縫・洗濯もの干し・花植え等の活動が今までの生活と変わらず無理なく実現できるよう支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社統一の理念を朝礼の際に唱和しております。接遇について「われわれの接遇5原則ルール」服薬について「誤薬に対する取り組み方法」	法人全体理念として、接遇5原則・誤薬に対するの取り組み方法について唱和し、職員間で介護の方向性の統一を図っている。また、理念の実践として、職員は明るいま表情と挨拶を意識し、言葉かけ一つで印象が変わるということに重点を置いている。誤薬が発生した場合は誤薬に対するの取り組み方法を更新している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の神社の清掃に参加したりと、地域の行事に参加しております。参加の際には、地域の方にグループホームに住んでいる方々を知ってもらえるよう挨拶をして回る様になっています。	町内会に入会し、回覧板にて町内行事の情報を得ている。近くの神社の清掃を入居者と共に定期的に参加している。その際に、近隣の方々にホームの夏祭り等の行事にお誘いしている。ボランティアセンターに依頼し、夏祭りの運営の手伝いの参加があった。	今後、町内行事に参加できるものを検討し、地域との関わりを深められる取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ認知症への理解を得る為に、介護認定の申請に入居者様と一緒にいくなど積極的に外出するようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でご家族や第三者の方々からたくさんのご意見を頂いております。1日の入浴人数などについてもご意見をいただくことがあり、すぐにフロア会議で検討するなど素早く対応しております。	二か月に1回開催。東区いきいき支援センター・民生委員・家族等のメンバーで構成されている。職員の名前が分からないとの意見より、各フロア入口にその日の勤務者の写真と名前を分かりやすく掲示する等、参加メンバーからの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいき支援センターとは、運営推進会議の案内を渡しに行くなど、こまめに訪問して情報交換をしています。 いきいき支援センターからの依頼で、認知症の勉強会などの冊子を施設に置くなどしています。	運営推進会議の案内を2か月に1回いきいき支援センターに持参した際に担当の職員にホームの現状や取組について伝えている。また、市町村主催の講習会の案内は職員が希望すれば参加できるよう回覧をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておりません。フロアの窓のカギは開放し、いつでも出られるようにしております。毎月、身体拘束についての勉強会を開催し、職員の意識向上を図っています。	毎月スタッフ会議の後に勉強会を開催しており、年間研修計画にテーマをしぼって行っている。その中で、マニュアルを基にスピーチロックを含めた身体拘束にあたる行為や身体拘束をしない為のケアについて学ぶ機会がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、コンプライアンス委員会で勉強をしております。言葉の暴力・拘束については特に力を入れて勉強しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元保証人がいない入居者様も入居されており、身元保証や成年後見制度について、区役所等から情報収集をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、1時間以上かけしっかりと説明しております。特に、金銭面や契約の解除方法などについては、誤解のないよう丁寧に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見として、面会時や運営推進会議以外に、面会簿に改善してほしい内容を記載する箇所を設けて、意見を頂戴する工夫をしております。	面会の際に面会記入表に家族からの一言を自由に記入できるスペースを設けている。また、夏祭りや外出レク等のホームの行事に家族をお誘いし、その際に困っている事や不安な事等を聴き取っている。ホームのおたよりは月に1回発行し、入居者の日頃の様子や月刊の行事案内をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月フロア会議の次第に反映し、話し合うようにしている。	管理者が普段いる場所の横に出勤簿を置き、管理者が意識的に、出勤してきた職員とコミュニケーションをとるように工夫している。また、月1回の全体会議の際は業務改善点や勉強会を行い、その後フロア毎でカンファレンスを開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績など、勤務態度などを把握し、処遇等へ反映させるようにしております。また、業務マニュアルを作成し、しっかりと休憩時間を確保できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修に力を入れています。施設内の勉強会として、便秘が続く方が入所したときに、排泄ケアの勉強会を開催するなど、その時々にならった課題点の勉強会を開催しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の障害者グループホームに併設されているカフェに入居者様と伺う機会を持ち、他事業者の話を聞いたり、交流を持つようにしています。同法人内の施設を見学するなどして、他施設の良い部分を吸収できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のインテークの際に、細かな部分まで聞き取りを行っております。なかなか人には話せない内容をうかがう為に、本人、家族へは個別に話を伺うようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院に入院されている場合のインテークでは、出来る限りご家族様にも同席していただくなど、入居までに出来る限りお会いする機会を作る様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階で、身体状況や既往歴などを伺い、グループホームとしてのサービスの限界や支援方法までを説明しています。現在の施設入居というニーズと、入居の必要性や入居後のニーズまでを含めて、細かくお話するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コンプライアンス委員会などを通して、職員の介護に対する意識などについて学ぶ機会を持っています。洗濯物たたみなどの家事活動を通して、入居者様同士のつながりを作れるようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には必ずお茶をお出しするようにしております。お部屋やリビングで、ゆったりとした時間を作る工夫をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅への外泊や、お墓参り、馴染みの美容院へ通うなど、馴染みの場所との関係を継続していただいております。	入居の際のアセスメントで本人と家族から馴染みの人や場所についての情報を聴取している。今まで利用していた美容院の利用やや病院受診等、家族の協力のもと継続できている。また、希望があれば、家族・友人への電話の取次ぎの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎週手作りおやつ企画をしています。おやつ作りの過程の中で、自然と入居者同士の関わり合い時間を作っています。おやつのでいい匂いに誘われてリビングへ集まって見える入居者様もおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に退去先へ訪問するようにしています。医療機関同士の情報交換できるよう手配や調整などを行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の趣味や暮らし方について細かくうかがうようにしています。毎月のモニタリングを通して意向の把握をすしています。	毎月のモニタリングの際に担当職員が暮らし方の意向や希望について聞き取ってフロア会議の際に他の職員と情報共有している。また、入居者によって個別なケアが必要な場合には職員間で対応の統一を図る為マニュアルを作成し本人本位のケアを実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴は、入居時にできる限り収集し、ケアプランへ反映しサービス提供につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2週間に1回の往診の前に、施設内での生活の様子や心身状態などの情報を収集しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人に居室担当者を割り当て、毎月のモニタリングを行っています。モニタリングを通して計画作成者一人の考え方に偏った計画にならないようにしています。	家族からの意見はホーム来訪時に聞き取り、担当の職員のモニタリングと意見を計画作成者がプランに反映するようにしている。計画と個別の支援項目は職員が記録に記入するたびに確認できるような書式を作成し入居者にどんな支援が必要かを職員全体で把握する取組が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて、個別記録を記入する様にしています。特別な事項については、業務日報に残し、勤務交代時の申し送りで情報を周知しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や地域の中で介護に悩んでいる人からの相談を受けています。入所希望で相談に来られた方が、涙を流しながら話をされることがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様を含め、ボランティア等多様な資源を活用する様にしています。8月に行った夏まつりではボランティアの方にも参加・協力していただきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を希望される方々には、提携医療機関以外の病院へ受診しています。疾患のことや薬のことで相談を受ける場合には、往診への立ち合いを勧め、納得のいく医療をうけていただいております。	月2回の協力医である内科の往診があり、他科での受診は家族が対応している。その他に、週1回の歯科の往診で義歯の調整や口腔ケアを行っている。また、緊急時には24時間協力医の看護師と連絡が取れるような体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診には必ず看護職が立ち会っており、往診前には主治医の医師へ伝える内容などを事前に打ち合わせしてから往診を行ってもらっています。 普段からこまめに訪問してもらっており、管理者以外の職員との関係性も深めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には2週間に1度はに面会に行くようにしています。その際に、病棟看護師から病状の説明や現状を確認し、施設側の受け入れ態勢を整えると同時に、看護職員へ連絡し、いつ退院してもいいよう準備を行う様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の在り方、方針を説明しております。体調の変化が見られた時には、ご家族様とお話をする機会を持ち、今後の方針等について話し合う様にしています。入院中の容体をふまえ、転居にいたったことも事例もあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや夜間の巡回のポイントなどのマニュアルを作成し、いつでも見れるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路図を掲示しています。シーツ担架を使った避難や災害時の自動ドアの取り扱いについて訓練を行っています。	年2回の避難訓練を計画し今年度は予定の1回を夜間想定で1階までの誘導と避難訓練を実施した。指定の避難場所である公園は散歩コースにし日頃より確認を行っている。備蓄は三日分と入居者の頭巾があり、歩行が困難な方のためのシーツ担架の準備もある。	地域の協力体制の構築のための取り組みを事業所内で検討される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会の中で、スピーチロックを題材にして集中的に学んでいます。その中で「ちょっと待って下さい」という言葉や「○○しますね」といった同意を得ない言葉を使用しない声のかけ方などを具体的に勉強しています。	居室の扉を開けっ放しにしない、入室時は必ずノックをする、申し送り時は入居者の名前を出さないで部屋番号で行うなどプライバシーへの配慮を徹底している。また、夜間の巡視時には入眠妨害にならない様ペンライトを使用する等の工夫がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身体拘束委員会の中で、同意を得る言葉がけということについて重点的に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れについてはマニュアルで遵守するよう心掛けていますが、食事の時間帯や就寝時間等、一人ひとりのペースに合わせて調整するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中と夜間のめりはりを付ける為に、パジャマに着替えるようにしています。フロア会議の中で、リビングは入居者様同士が集まる場として、リビングに出る時の身だしなみについて注意するよう話し合っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付けを入居者様と一緒にしています。食事の好みに合わせて形態やメニューも変更しています。実際に歯が痛いという入居者の為に、しばらくメニューとは別にうどんをつくったりと、その時々に合わせて提供しています。	献立は法人の管理栄養士が作成し調理はフロア毎に行っている。週1回手作りおやつの日を設けケーキ・お好み焼き・栗きんとん等を一緒に調理している。また、要望チェック表で嗜好を聞きとり、人気のある献立は本会社に伝えられ、管理栄養士作成の献立に反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000ccの摂取を目標にしています。16時に夜勤者が出勤するときに、水分不足の入居者様の申し送りをを行い、夕食や就寝前に好みの飲み物を飲んでもらえるようにする等の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後に必ず口腔ケアを行うようにしています。勉強会で口腔ケアの必要性や方法などについて学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツを使用しないように心がけています。個々に合わせた排泄方法やパットの種類を考えています。	排泄チェックリストをベースにし食後にも声掛けし、オムツでの排泄ではなく出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。自立されている方については見守り、排泄後に様子を聴き取っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会で便秘の改善や排泄パターンのつかみかたについて学んでいます。排泄時の姿勢を良くするためにトイレに足台を設置するなどして便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴時間に余裕を持っています。当日の気分に合わせて時間や入浴方法を変え入居者のペースに合わせて支援しています。	1階は月木2階は水土で週2回フロア毎で入浴日を変え午前午後3人ずつ入居者がゆっくり入浴ができるよう工夫している。足拭きマットは、毎回交換し、感染予防の配慮がある。入浴後には夏はボカリスエット冬はお茶を提供し、十分な水分補給を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を具体的に設けず、他の入居者様に迷惑がかからない程度としています。当日のテレビ番組の内容や季節に合わせて、就寝時間については柔軟に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、法人全体で力を入れていません。服薬マニュアルを作成し、薬の飲み残しや飲み違いが起こらないように徹底してルールを順守しています。さらに、往診毎に代わる薬について、記録に残し職員が閲覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週変わる手作りおやつ企画を実施しています。洗濯たたみや食器洗いなどの家事活動を入居者様と一緒にやるようにしており、出来る限り役割分担などは入居者様同士で決めて頂く様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の障がい者グループホームが運営するカフェへよく出かけております。先方の職員の方が施設までの帰路に同行して下さったりと、お互いに交流を大切にしながら外出をしています。	日常的には近所の喫茶店や近くの神社まで参拝をかねて散歩している。入浴が無い日は少し離れた公園まで出かけている。秋の行楽ではフロア毎に東山動物園に行き、法人全体の行事では希望者のみであるが三重県のほうまで1泊旅行に出掛けた。入居者の要望でおやつや日用品等の外出に同行する等、個別での支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でのお金の管理はしていないため、各入居者様がお部屋で自己管理されています。缶コーヒーが飲みたいと希望する入居者様と近くの自動販売機にジュースを買いに行くなど、お金を使う機会を持つようになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは制限しておりません。入居者様が希望される時には、施設の電話を貸し出す様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を感じられるしつらえを施しております。清潔感があって落ち着いて生活できるよう毎日の掃除を徹底しています。鏡に対して強く反応される入居者様のためにのれんを設置するなどして混乱を招かないよう配慮しております。	フロア入り口には面会簿・マスク・職員のその日の勤務者の写真付きの札がある。リビングには加湿器と湿度計があり、快適に過ごせるよう配慮している。トイレは間口が広く車いす使用でもゆったり介助できるスペースが設けられている。また、毎日夜勤者がフロアの清掃を行い、清潔な空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋で閉じこもりにならないよう、共有空間で行う体操やおやつ時間を設け、自然と共有空間に人が集まってくるよう努力しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、できる限りご自宅で使用していたものをもってきていただけるようご説明しています。	ベッド・カーテン・エアコンは備付で入居の際にご本人の好きなもの馴染みの物を置いて頂くよう説明している。テレビ・仏壇・冷蔵庫等の持ち込みもある。冷蔵庫の管理は担当職員が賞味期限等の管理を行っている。視覚障害の方の居室の入口には手で触って分かる印をつける等の工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間やトイレなどには手すりなどを設け、1人でも安全に生活できるようにしています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム とくがわの憩

目標達成計画

作成日: 平成 28年 2月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との関わりを深められる取組みについて。	町内行事に参加。地域との関わり合いを深める。	回覧板や運営推進会議で地域行事の情報を得て参加可能な行事を把握し無理がない範囲で参加する。	6ヶ月
2	35	災害対策時の地域の協力体制の構築について	地域の方や消防団との関わり合いを持ち協力体制を築いていく。	地域の方や消防団の方に運営推進会議の参加と防災訓練の参加を呼び掛ける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。